

あかぎさん

## 赤城山

あかぎさん かんとうちほう ほくぶ ぐんまけん ちゅうおう いち たいへいよう  
赤城山(あかぎさん、あかぎやま)は、関東地方の北部、群馬県のほぼ中央に位置し、太平洋プレートがオ  
ホーツクプレートに沈み込んでできた弧島型火山である。また、赤城山はカルデラ及びカルデラ湖を持つ関東  
ちほう ゆうすう ふくせいかさん  
地方で有数の複成火山である。

はるなさん みょうぎさん なら ひと かぞ にほん ひやくめいざん にほん ひゃっけい えら  
榛名山・妙義山と並び、上毛三山の一つに数えられている。また、日本百名山、日本百景の一つにも選ば  
れている。中央のカルデラの周囲を、円頂を持つ1,200mから1,800mの峰々が取り囲み、その外側は  
ひょうこう やく ひろくゆる すその こうげんだいち  
標高にして約800mまでは広く緩やかな裾野の高原台地をなしている。

ちゅうおうぶ ない みずうみ おおぬま かこうこ こぬま  
中央部のカルデラ内には、カルデラ湖の大沼や覚満淵(かくまんぶち)、火口湖の小沼がある。

おおぬま とうがん さいこうほうくるひやま さんろく あ ばしよ あかぎ じんじや さんろくかくち さとみや かんとう  
大沼の東岸、最高峰黒檜山の山麓に当たる場所に赤城神社があり、山麓各地に里宮があるほか、関東  
いちえん まっしや ぶんぶ  
一円に末社が分布している。

### やま こうせい 山の構成

あかぎやま ふくせいかさん ふくすう さんちよう そうしやう さんちようめい いか とお  
赤城山は複成火山であり、複数の山頂の総称である。山頂名は以下の通り。

- くろひさん さいこうほう がいりんやま  
● 黒檜山(くろびさん、1,828m) - 最高峰、外輪山。
- こま たけ がいりんやま  
● 駒ヶ岳(1,685m) - 外輪山。
- じぞう だけ さんちよう かくでんぱ つうしん あかぎ ちゅうけいきよく お  
● 地藏岳(1,674m) - 山頂に各電波通信の赤城中継局が置かれている。
- ちやうしちろうやま こぬま かざん いちぶ こぬま かこむ かこうかべ いちぶ  
● 長七郎山(1,579m) - 小沼火山の一部で、爆裂火口の小沼を囲む火口壁の一部。
- しやうじぞう だけ こぬま かざん いちぶ ばくれつかこう こぬま かこ かこうかべ いちぶ  
● 小地藏岳(1,574m) - 小沼火山の一部で、爆裂火口の小沼を囲む火口壁の一部。
- なべわりやま そくかさん  
● 鍋割山(、1,332m) - 側火山。
- あらやま そくかさん  
● 荒山(1,572m) - 側火山。
- すずがだけ そくかさん  
● 鈴ヶ岳(1,565m) - 側火山。

### かざん かつどう 火山活動

### けいせいし 形成史

あかぎさん けいせいし じき わ こきせいそう かざん けいせいき しんきせいそう かざん けいせいき ちゅうおうかこう おか  
赤城山の形成はいくつかの時期に分けられる。古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘

けいせいき  
形成期である。

## 古期成層火山形成期

やく まんねんまえ あしお さんち ことねがわ あいだ ていしっち かしわざいちば こうぞうせん ぐんまけん どうぶ ぶぶん とねがわ こうぞうせん  
約50万年前、足尾山地と古利根川の間 の低湿地、柏崎 千葉構造線 の群馬県東部部分(利根川構造線)  
の割れ目で火山活動が開始される。安山岩 質 (Sio<sub>2</sub> 54 - 60%) の溶岩とスコリアから成る成層火山を形成  
した。最大時の標高 は2,500m程度と推定 される。

やく まんねんまえ に さんか そ りょう ふ ようがん しつ ともな ばくはつてきふんか  
約20万年前 ごろから二酸化ケイ素の量 が増えて溶岩 がデイサイト質 になり、それに伴い爆発的 噴火が  
多発し、火砕流や山体 崩壊 による岩屑 などが山麓 に流下して現在 の広い山麓 を形成 した。標高 が1500  
mほどになったとみられる。

なんせいがわ あかぎ きつやまいわくず あかぎ にしがわ こりつ おかぐん きつやま はこだやま じゅうにやま じょうもう  
南西側 へは赤城橋山岩屑 などがあり、赤城西側 にある孤立丘群 (橋山・箱田山・十二山など)、上毛  
大橋 東 側 にあるカール状地形を形成 した。一説 には、群馬県前橋市昭和町の岩 神 飛石や敷島公園の  
お艶が岩 はこの岩屑 などによるものだという。

なんとうふもとがわ なしき でいりゅう はつせい さんたいほうらく ともな だいきぼ いわくず おおご おおまま ほうめん  
南東麓側 では梨木泥流 が発生 している。山体 崩落に伴う大規模な岩屑 などであり、大胡・大間々方面  
へ流れ、伊勢崎市北部 (権現山・華蔵寺周辺 )まで到達し、その後、いったん火山活動は休止した。

## 新期成層火山形成期

やく まんねんまえ まんねんまえ だいきぼ ばくはつ ともな かつどう かつづつか さんちょうぶ ほうらくぶ おお  
約15万年前 (または13万年前) ごろ、大規模な爆発を伴って活動 が活発化し、山頂部の崩落部を覆うよう  
に溶岩ドームが形成 された。黒檜山・駒ヶ岳などの部分である。船ヶ丘山 はこのときの流出 溶岩 が固まっ  
たものという。

おぐろ ひやま あらやま なべわりやま すずがだけ やま ようがん そくかざん けいせい すずがだけ  
また小黒檜山・荒山・鍋割山・鈴ヶ岳、コフタ山といった溶岩ドームの側火山が形成 された。鈴ヶ岳 などの  
ふんか せいほくせい かさいりゅう なが たなしたかさいりゅう かさいりゅう こもちやま や かたち たいせき とねがわ  
噴火では西北西 へ火砕流が流れた(棚下火砕流)。この火砕流は子持山に止められる形 で堆積、利根川  
を遮って古沼田湖を形成 している。なお鈴ヶ岳 北西 から一帯 の谷 地域を深山カルデラとしてこの時期陥没  
したとする説もある。この説 では鈴ヶ岳を地蔵岳・小沼火山と同時期に形成 された深山カルデラの中央  
火口丘とみなしている。荒山・鍋割山 の噴火は約7万5千年前で、南麓へ大胡火砕流が流れている。

## 中央 火口丘 形成期

やく まんねんまえ ゆ くちこうか かるいし ふきだ さんちょうぶ おお かんぼつ げんざい さんちょう けいせい  
約4.5万年前 には湯の口降下軽石を噴出し、山頂部が大きく陥没、現在 の山頂 カルデラを形成 した。  
がいりんやま のこ くらひやま こまがだけ じんがさやま やくし だけ しゅつちょうやま すきえさん とりい どうげ  
外輪山 として残っているのは黒檜山をはじめ、駒ヶ岳、陣笠山、薬師岳、出張山、鋤柄山、鳥居峠 である。  
また、正確な時期は不明だが、カルデラ内部にはカルデラ湖が形成 された。

まんねんまえ かぬま こうか かるいし ふきだ ご じぞう だけようがん こぬま み はらしやま ちゅうおうかこう  
3万年前には鹿沼降下軽石を噴出した。その後、地蔵岳溶岩ドームと小沼タフリング、見晴山が中央火口  
おか けいせい さいご だいきぼ しきふんか とだ  
丘として形成された。これを最後に大規模なプリニー式噴火は途絶えている。

ちゅうおうかこう おか しゅつげん こ ぶんかつ ちゅうおうかこう おかほくとう おお ひろ ふるおおぬま にしがわ  
中央火口丘の出現によりカルデラ湖は分割され、中央火口丘北東に大きく広がる古大沼、西側の  
にいざかひらみずうみ みなみがわ もりみずうみ ふるおおぬま にいざかひらみずうみ げんりゅう ほくせい  
新坂平湖、南側のオトギの森湖の3つになったが、古大沼・新坂平湖はこれを源流として北西  
なが ぬまおがわ しんしよく しゅくしやう にいざかひらみずうみ しょうしつ ふるおおぬま げんそん おおぬま さとるみつぶち  
に流れていた沼尾川の侵食によって縮小、新坂平湖は消失、古大沼は現存する大沼と覚満淵  
しゅつげんちたい わ もりこ かすかわ しんしよく しょうしつ  
(湿原地帯)に分かれた。オトギの森湖も粕川の侵食で消失した。

こぬま かこう みず た こぬま けいせい とうしょ げんざい おお かすかわ はいすい  
小沼タフリングには火口に水が溜まり小沼を形成した。当初は現在よりも大きかったが粕川の排水で  
げんざい ひろ しゅくしやう  
現在の広さまで縮小している。

## さいしん ふんか 最新の噴火

ない さいしん かざん かつどうちけい どうじ ふんか けいせい こぬま ち いけかこう やく まん  
カルデラ内にある最新の火山活動地形(同時噴火で形成された小沼タフリング・血の池火口)は、約2万  
ねんまえ けいせい すいてい はるなさん せいき おこ ふんか ふ はるな いかほ  
4000年前に形成されたと推定されており、それを榛名山が6世紀に起した噴火で降らせた、榛名伊香保  
こうか かるいし ひょうめん おお あがつまきやう きじゅつ いみ かのうせい たか なんろく  
降下軽石が表面を覆っていることから、吾妻鏡の記述は山火事を意味する可能性が高いとされる。南麓  
てら かじ せつ やまかじ おおむ かこ 1まんねんない ふんか かざん ていぎ  
の寺の火事のことではないかという説もあり、山火事とすると「概ね過去1万年以内に噴火した火山」と定義  
かつかざん がいとう  
されている活火山には該当しない。

いっぼう けんちょう ねん ふんか あがつまきやういがい げんきやう しりやう はっけん みやさわ あかぎ じんじゃ  
一方、建長3年の噴火について吾妻鏡以外にも言及する史料が発見されている。三夜沢赤城神社の  
しんかんげ でんらい こもんじよ あかぎ じんじゃでんらいき けんちょうさんねんごろ とうおろ だけ はる や はじ しがつ  
神官家に伝来した古文書「赤城神社伝来記」のなかに、「建長三年頃、当於呂嶽、春より焼け始め、四月  
じゅうくにちやきで いしすな ことおびただ とも とうしょ ぶなん いまあかいしたいらぜ おろ だけ あらやま あか  
十九日焼出、石砂をふらす事夥しけれ共、当所は無難なり、今赤石平是なり」(於呂嶽は荒山、赤  
いしたいら げんざい こむぎさわ あかぎ おおあな おおあながわ げんとう さわ まんねんまえ すいじょうき  
石平は現在の小麦沢)とある。峰岸純夫は、赤城の大穴(大穴川の源頭の沢、3~4万年前の水蒸気  
ばくはつ か こうあと すいてい しょうきぼ すいじょうきばくはつ けんちょう ねん かのうせい しめ  
爆発の火口跡と推定)で小規模な水蒸気爆発がこの建長3年にあった可能性を示している。

## あかぎさん よ かた 赤城山の読み方

じょうもう よ ふだ すその なが あかぎさん ぐんま けんみん あいだ  
上毛かるたの読み札に『裾野は長し赤城山(あかぎやま)』とあるように、群馬県民の間では「あかぎやま」  
よ した じもと どうろ あんないひょうしき ひょうき あかぎさん あかぎさん  
と呼ばれ、親しまれている。地元の道路案内標識での表記は「赤城山Mt.Akagi」のほかは、「赤城山  
あかぎさん しょうわじだい きょうどりきし あかぎやまあきら ふじおかし  
Akagiyama」または「赤城山Mt.Akagiyama」である。また、昭和時代の郷土力士である赤城山晃(藤岡市  
しゅっしん しまためい よ かた  
出身)の四股名の読み方も「あかぎやま」である。

あかぎさん こくど ちりいん ちず きさい やま よ きてい  
赤城山は国土地理院の地図ではあかぎさんと記載されていた。これは「山」を「さん」と読むと規定されていた  
ぐんまけん とく まえばしし しゅうへん よ した ぐんまがわ いぎ  
からだが、群馬県、特に前橋市周辺であかぎやまと呼ばれて親しまれていたため、群馬側がこれに異議を

もう た かいしょう もと こくど ちりいん う い げんざいはっこう ちず  
申し立て、あかぎやまへの改称 を求めた。国土地理院はこれを受け入れ、現在 発行の地図はあかぎやま  
なっている。

いっぽう こくど ちりいん やま しょうかい だいいち びこう あつか  
一方、国土地理院サイトの山の紹介 では「あかぎさん」を第一 とし、「あかぎやま」は備考として扱われてい  
る。

あかぎさん しゅうへん あかぎさん ちめい えど じだい かんかつ ごりょうち  
また、赤城山周辺 にいくつかある「赤城山」という地名は、江戸時代の入会地が宮内庁管轄 の御料地を  
へ ねんだいころ おおあざ はじ つ よ ちめい よ かた  
経て1950年代 頃に大字 となったとき初めて付けられたもので、すべて「あかぎさん」と読む。地名の呼び方は  
「やま」と「さん」が混在しているともされる。

にほんしゅ めいがら あかぎさん よ かま くらもと かんが とう  
このほか、日本酒の銘柄 である「赤城山」は、どちらの読みでも構わないという蔵元の考えから、ラベル等に  
はあえてふりがなを記していない。

## 赤城風(あかぎおろし)

とうき かんとうへいや ふ とくゆう きたかぜ から かぜ ぐんまけん へいちぶ さいたまけんほくせいぶ  
冬期の関東 平野に吹く特有の北風「空っ風」を群馬県平地部や埼玉県 北西部では赤城風(あかぎおろし)と  
よ ごげん あかぎさん ほうかく ふ じょうもう よ ふだ かみなり からつかぜ  
呼ぶ。この語源は赤城山の方角から吹くため。上毛 かるたの読み札には『雷 (らい)と空風 (からつかぜ)  
ぎり にんじょう ぐんまけん かた うえ から かぜ そんざい はず  
義理人情 』とあり、群馬県を語る上で空っ風の存在 は外 せない。

## でんせつ でんしょう 伝説・伝承

にっこうなんたいさん ほくせいふもと せんじょうがはら なんたいさん かみ あかぎさん かみ だいいじゃ おお  
日光男体山の北西 麓 の戦場ヶ原 には、男体山の神 と赤城山の神 がそれぞれ大蛇と大ムカデになって  
たたか なんたいさん かみ しょうり でんせつ あかぎさん きた おいがみおんせん ちめい  
戦 い、男体山の神 が勝利をおさめた、という伝説 がある。赤城山の北にある老神 温泉 の地名は、このと  
お の かみ お ゆらい やまな かみ なが ち あか  
き落ち延びた神 が追われてやってきたことに由来するといわれ、「アカギ」という山名も神 が流した血で赤く  
そ あか てん せつ せんじょうがはら ま あかぎさん かみ おいがみおんせん きず  
染まったことから「赤き」が転じたという説もある。また、戦場ヶ原 で負けた赤城山の神 は老神 温泉 で傷を  
いや あと なんたいさん かみ お かえ  
癒した後に男体山の神 を追い返したという。

えどがわぞ ちばけん ながれやまし あかぎ じんじゃ まつ こやま だいこうずい さい あかぎさん さんたい  
江戸川沿いにある千葉県の流山市 には、赤城神社の祀られた小山があり、大洪水 の際に赤城山の山体の  
いちぶ なが でんせつ ながれやま ちめい ゆらい  
一部が流れてきたものだ、という伝説 がある。「流山 」という地名はこれに由来するという。

あかぎやま じょうしゅう くにさだちゅうじ ゆうめい めいじ たいしょう しょうわしよき こうだん しんこくげき だいいざい  
赤城山といえば、上州 ・国定忠 治で有名 であり、明治、大正 、昭和初期に講談や新国劇の題材 として  
だいにんき くにさだちゅうじ ひとふし あかぎ やま こよい かぎ う ふるさと くにさだむら なわば す くに す  
大人気だった。国定忠 治の一節「赤城の山も今宵限り、生まれ故郷の国定村や、縄張りを捨て国を捨て、  
かわい こぶん てまえ わか わか かどで せりふ やま  
可愛い乾分(こぶん )の手前(てまえ)たちとも、別れ別れになる首途(かどで)だ。」の台詞で、この山の  
なまえ ぜんこく ひろ  
名前が全国に広がった。

## とざん こうつう 登山・交通

あかぎやま くろひやま こまがだけ のぼ あかぎやま くろひのき  
赤城山ビジターセンターから黒檜山や駒ヶ岳などに登ることができる。赤城山ビジターセンターから黒檜  
さんちよう かたみち じかんはん  
山頂 までは片道 1時間半くらいである。

## バス

- ろせん  
路線バス
  - まえばしえきはつ  
前橋駅 発
    - あかぎ ゆき がついがい ふじみ おんせん のりかえ  
赤城ビジターセンター行 (6 - 10月 以外は、富士見温泉 で乗換)
    - あかぎ おんせんゆき なんめん  
赤城温泉 行 (南面)
    - あかぎ せいねん いえゆき なんめん  
赤城青年 の家行 (南面)

とうぶ てつどう ながねん あかぎさん おおほら あかぎ せいねん いえ ちくさんしけんじょう ろせん うんこう とうぶ てつどう  
東武鉄道が長年「赤城山大洞」「赤城青年 の家」「畜産試験場」の路線を運行していたが、東武鉄道の  
ぐんまけん てつたい き かんえつこうつう けいしやう ゆ さき へんこう  
群馬県撤退を機に関越交通が継承 し、行き先を変更した。

## てつどう 鉄道

げんざい ひがしにほん うんこう とうぶ てつどう うんこう きゆうこうれっしや れっしやあいしやう  
現在 JR東日本 が運行する「あかぎ」と、かつて東武鉄道が運行していた急行列車「あかぎ」の列車愛称 の  
ゆらい ねん り へいちやや あかぎ さんちよう あかぎ とざん てつどう うんこう  
由来ともなった。なお、1967年までは利平 茶屋から赤城山頂 まで赤城登山鉄道が運行されていた。

## れんらくどうろ 連絡道路

### カルデラ内 への連絡道路

- ぐんま けんどう ごうまえばしあかぎ せん  
群馬県道4号前橋赤城線
- ぐんま けんどう ごうめまた あかぎ せん  
群馬県道251号沼田赤城線
- ぐんま けんどう ごうおおご あかぎ せん  
群馬県道16号大胡赤城線

## あかぎさん なまえ 赤城山にちなむ名前

- だいにほん ていこくかいぐん こうくう ぼかん あかぎ  
大日本帝国海軍 の航空母艦「赤城」
- し じようもうでんき てつどうじようもうせん とうぶ てつどうきりゆうせん あかぎえき  
みどり市にある上毛 電気鉄道上毛 線と東武鉄道桐生線 の赤城駅
- ぐんま けんない しょうがっこう うんどうかい くみわ あかぎだん  
群馬県内の 小学校 における運動会 の組分け「赤城団」
- くん せいぞう あかぎ にゆうぎやう  
『ガリガリ君』を製造している赤城乳業

- ふじおかし しゅっしん りきし あかぎやま あきら さいけい  
藤岡市出身 の力士、赤城山晃（再掲）
- ぬまたし しゅっしん りきし とちあかぎ まさお  
沼田市出身 の力士、栃赤城雅男
- だい かいこくみんたいいくたいかい こくたい  
第 38 回国民体育大会 の「あかぎ国体」
- JR ひがしにほん うんこう とっきゅう さいけい  
JR東日本 が運行する特急「あかぎ」(再掲)
- とうぶ てつどう うんこう きゅうこうれつしゃ さいけい  
東武鉄道が運行していた急行列車「あかぎ」(再掲)

あかぎさん かんする さくひん  
**赤城山に関する作品**

- まんが まんが こうどう おこなしゅうだん あかぎ きよてん  
漫画・アニメ・ゲーム『頭文字 D』:公道レースを行う集団「赤城レッドサンズ」のレース拠点。
- ゲーム『アウトモデリスタ』
- ゲーム『バトルギア』シリーズ